

2学期始業式の講話

今回は内田樹さんのブログ「道徳について」(2019年9月3日)をもとにお話しをしました。

人として成長する秋へ Unsung Hero

2学期始業式
令和8年9月2日

1枚の写真 何に気づきますか？



皆さんの知らないところで、
床をきれいにしてくれている人がいる。



皆さんが精一杯楽しんだ桜高祭にも、
その舞台を用意してくれた人たちがいる。



長い夏休みも終わって、いよいよ2学期が始まります。

まだまだ暑い日が続くので、今回もオンラインでの始業式です。

2学期が始まるにあたって、今回は高校生活を通して何かを成し遂げるためのヒントに関する話をしたいと思います。

まずは、この写真。どんなことに気づきますか？
これは相談室から生徒指導室に続く廊下の写真。

皆さんがいつも通っているところですね。

これは夏休み中の学校閉庁日に撮った写真です。
あまりに廊下がピカピカで美しかったので、思わず嬉しくなって撮ってしまいました。

後期の補習が始まって登校したときに、皆さんは気づきましたか？

是非、皆さんにはこうした変化に気づくようになってほしいと思います。そして、その状態を作り出している誰かがいることに思いをはせることができる人になってほしいと思います。

そうです。これは学務員さんたちが、1か所1か所ていねいに時間をかけてワックスをかけてくれた結果です。

もちろん、皆さんの学校での活動の邪魔にならないように皆さんがいない時間を選んで行ってくれているので、その作業に気づかないかもしれません。

私たちの快適な生活は見えないところで誰かが支えてくれている。そのことをイメージできる人になってほしいと思います。それができる人は、きっといろんなことに感謝できる人になるはずです。

先日の桜高祭。皆さんのあり余るほどのエネルギーと自己表現、イベントの成功のために全力で協力する姿を感じてとても幸せな気持ちになった1日でした。

きっと皆さんは、あの舞台を満喫するにあたって、生徒会執行部やクラスのとめ役、さらにはたくさんの業者の方々や先生方といった本当の多くの人たちが、そのために動いてくれたことを知っているはずです。

また、そうした裏方で日の当たる誰かを支える役割を担ったことのある人は、私たちの楽しさや快適さがそうした「見ようとしなければ見えない誰か」によって成り立っていることを知っているはずです。

いろいろなことを“あたり前”と思っていないか？



“あたり前”の
反対語は？

ある人が村のはずれの川沿いを歩いていた
ら、堤防に小さな穴が開いていたのを発見



小石を拾って、その穴
をふさいだ

しばらくして大雨が降った時
その堤防は崩れず、村は水没を免れた



村人たちはその人が村を
救ったことを知らない



「アンサング・ヒーロー」

(unsung hero)

その功績が歌に歌われて、
称えられることのない英雄

これは、私自身も自戒の念をこめての問いですが、
「いろいろなことを“あたり前”と思っていないでし
ょうか？」

人はつい、この“あたり前”を起点として考えてしま
うので、少しでも自分にとって都合が悪いことやおも
しろくないことをマイナスでとらえてしまい、不満や
不平を口にしてしまいがちです。でも、これって自分
の恵まれている環境をゼロ査定して、何もかも自分の
快適で面白いようになければ気が済まない病に陥って
いると言えます。

“あたり前”の反対語が何か知っていますよね。

まず、一つ目のお話として、見えないものに気づく
ためのエピソードを紹介します。

ある人が村のはずれの川沿いを歩いていました。
そしたら、堤防にひびが入っていて、そこから水が
ちょろちょろしみ出しているのをたまたま見つけま
した。その人はちょっと気になったので小石を拾っ
て、その穴をふさいで立ち去りました。

それからしばらくして、大雨が降った時、その堤
防は崩れることなく、村は水没を免れたそうです。

でも、村人たちは、その人が村を救ったことを知
りません。

実は、こういう人のことを指す英語があります。

それは「アンサング・ヒーロー」と言います。
「その功績が歌に歌われて称えられることのない英
雄」という意味です。

たいへんな功績をあげただけけれど、人々はその
ことを知らない。

実際に歴史上そういう人はたくさんいました。そ
の人たちの「目に見えない気遣い」のおかげで、多
くの人が、多くの街や、多くの文明が救われた。で
も、その人を「英雄」として称える歌は誰も歌わな
い。知らないから。

「アンサング・ヒーロー」たちは、おそらく自分
の英雄的行為を、何気なく、ごく日常的なふるまい
として行ったことも多いのではないかと思われま
す。

雪の降った日に、朝早く雪かきをした人がある



後から通学する人たちは、なぜか自分の歩く道だけは雪が積もっていないことにも気づかずに…

もし誰かが雪かきをしなかったら、誰かが滑って転んで骨折をしていたかも…



「起こらなかった」ことについては、誰もそれに感謝したり、称えたりしない

共同体や社会には、
誰かがしなければならぬことを
自分事としてさりげなく引き受ける人がある



そんな人が持っているのは

“気づく力”
“行動する意志”

“あたり前”の反対語は、
“有難い”

【レベル1】
いろいろしてもらっていることに
“気づく” “感謝する”

同じような話として、雪の降った日に、早起きをして雪かきをした人がいたとします。その人は、一通り雪かきを終わると家に入ってしまった。

あとから起き出して通勤通学する人たちは、なぜか自分の歩いている道だけは雪がどかされていることに気づきもしないで、すたすた歩いていきます。

でも、この人が早起きして雪かきをしてくれなかったら、その中の誰かが滑って転んで、骨折していたかもしれないし、歩くのにみんなが苦勞したことでしょう。幸いにもそういうことは起きなかった。起こらなかったことについては、誰もそれを感謝したり、それを称えたりしません。でも、たしかに雪かきをした人は、起こったかもしれない事故のリスクを減らしたはずです。この人もまた「アンサンブ・ヒーロー」です。

それは、誰かがしなければいけないことがあったら、それは自分の仕事だというふうに考える人のことです。誰かが余計な責任を引き受けたり、余計な仕事を片付けたりしないといけないなら、自分がやる。

廊下に落ちているゴミは自分のものではないけれど、気づいてしまったので放っておけない。困っている人がいたら、手伝いを申し出る。

今回の桜高祭でも、生徒課の先生から聞きました。前日に先生方でもいろいろと準備に苦勞していたら、本当にたくさんの生徒から手伝いますと申し出があったので、この高校の生徒は本当に素晴らしいと感じたと。そうした**“気づく力”**や**さりげなく“行動する意志”**をもった人が多い社会にしたいものです。

先ほど投げかけた問い。“あたり前”の反対語は“有難し”、つまり感謝すべきことですね。

まずは、皆さんにこれからの2学期を迎えて、さまざまな結果を出していくべき秋に、心がけてほしいことは、学校生活においていろいろな方々から、してもらっていることに**“気づいて”**“**感謝する”**ことです。

「きれいなものを見つける力は
視力とは別にある」
中谷 彰浩

何でもないものの中に、きれいなものを見つけることができますか？

その対極にあるのはこんな人たち

(お金を払っているからと)
店員に横柄な態度をとる

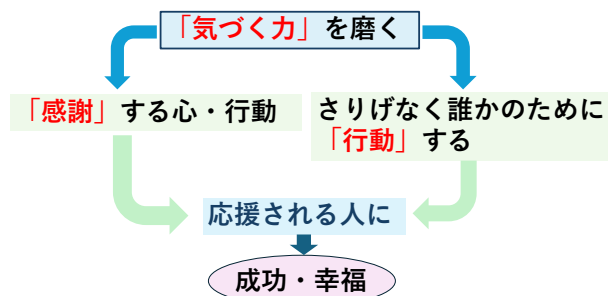


(お金を払っていても)
感謝を伝えられる

【レベル2】
社会や共同体に
“貢献する” “支える側にまわる”



人知れず、さりげなく、
やっている人はやっている



コピーライターの中谷彰浩さんの言葉に「きれいなものを見つける力は、視力とは別にある」というものがあります。

まずは“**気づく力**”を磨きましょう。しかも、何でもないものの中に誰かの美しい行いや思いを見つけることができるようになれば、自分の魅力もかなり磨かれているはずです。

そして気づいた人から自然と感謝を表現できるようになります。

逆に、“ありがたい”と思って感謝できない人は、応援されない人になっていきます。

お金を払っているからと、店員に横柄な態度をとる人からは、人が離れていきます。

お金を払ってサービスを受け取っていても、感謝やポジティブなフィードバックができる人は、応援するファンが集まってきます。

そして感謝ができるようになったら、次のレベルです。「アンサング・ヒーロー」のように、誰かがやったほうが良いと気づいたら、さりげなく貢献する人になってほしい。

別に褒められるためではなく、「結局誰かが困るのならば自分がやっておこう」くらいの軽い気持ちで。

これも毎年受験勉強で遅くまで学校に残って頑張っている生徒の中に見かける光景ですが、教室のゴミを片付けたり、最後に窓を閉めたりしてくれる人がいます。その姿にいつも心から応援をしたい気持ちになります。「徳を積む」受験生が成功する理由の一つです。

まとめます。成功したり幸せになる人は、「**応援される人**」です。そのためには、「**感謝する**」心と**感謝を表現**すること、そして、**誰かのためにさりげなく「行動」**ができることが大切です。その2つの前提となるのは、**見えないものに「気づく力」**です。その力は、普段からその感性を磨こうとしていなければ決して身につかないものです。是非皆さんの中にある、そうした感性を磨く2学期を送ってほしいと思います。受験も、夢の実現も、そうした積み重ねから結果としてついてくるはずですよ。